

第145号 3月

岐阜県勤労者山岳連盟

岐阜県連

県連ニュース



編集・校正：瑞浪山の会



全国連盟の動き

全国連盟全国評議会報告

岐阜県連 代議員 長沢近房

2月15日（土）13:00～16日（日）
12:30

東京府中・ホテルコンチネンタル
全国連盟は1期2年で運営されているので総会が2年ごとに開催され、主にその中間年に評議会が開催されます。

今回は4名の委任状を含む40名の各
地方連盟（県連）の評議員が出席し、
2024年度活動総括、2025年度活動方針
案、2024年度の決算報告と2025年度の
予算案等が活発な質疑応答により審議
されました。

また、地方連盟（県連）の実情や行
事の成果などの活動報告も限られた時
間の中で発表されました。

詳しい内容などについては労山ジャー
ナル（JWAF journal）、登山時報（春
号）に掲載されますので、日本勤労者
山岳連盟のホームページをご覧ください。

<https://www.jwaf.jp/activity/japan/index.html>



JWAF Journal 1月～3月紹介

JWAF journal



<https://www.jwaf.jp/>

https://www.jwaf.jp/publication/jwafjournal/pdf/2025/JWAFjournal_2025.01_web.pdf

JWAF journal



https://www.jwaf.jp/publication/jwafjournal/pdf/2025/JWAFjournal_2025.02_web.pdf

JWAF journal



https://www.jwaf.jp/publication/jwafjournal/pdf/2025/JWAFjournal_2025.03_web.pdf

岐阜県連の動き



【天狗山で白山方向をバックに】

2024 年度雪山歩行技術講習会

実施報告

県連遭対部 遭難対策部長
あるぱいん KANI 小酒井 勉

1. 日時
2025 年 1 月 19 日（日） 9:00～15:00
2. 天候
ガス後、晴れ、後ガス
3. 開催場所
大日ヶ岳(1709m) から 天狗山(1658m)
4. 参加者
みのハイキング(9)、大垣(5)、多治見(7)、
中津川(2)、KANI(4) 合計 27 名
5. 講習目的
雪山装備（登山靴・アイゼン・ワカン等）
を使い、各グループリーダーの下、目的の山
まで安全に歩行し安全に戻る。
6. 講習内容
 - ・雪山装備を使いこなす。
 - ・時間制限を設けて無理の無い計画。

引き返し時刻を 11:30 に設定

- ・グループ員の体調管理、歩行状況は各グループリーダーの管理の下、実施。
- ・あるぱいん KANI は全体管理を実施。



【開会式】

7. 開会式（9:00）
 - ・参加者の確認後、講習会の目的と講習内容を連絡し大日ヶ岳まではアイゼン装着で歩行することを連絡。
- ：当日の高鷲スノーパークはスキー客、登山者も多く大変な混雑状況であり、中津川の2名と合流できず。漸く電話が繋がりに他の訓練山岳会について行ってしまったことが判明し、

呼び戻すことにした。その後、合流したが歩行速度に大きく差があり他のメンバと別行動させることを決め、あるばいん KANI メンバが同行することにした。

8. 講習会

- ・アイゼン装着は各グループリーダーにより装着のフォロー及び確認は出来たと判断。

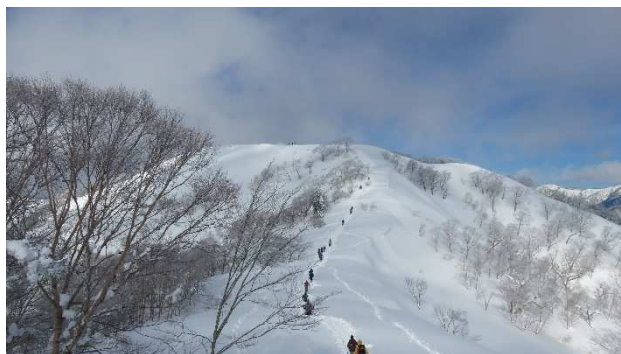
: 昨年実施の歩行講習会の時に比べるとかなり上達していたと思います。

- ・大日ヶ岳までの雪山歩行はルートがしっかり踏み固められていたのでアイゼン歩行は快適であったと思います。大日ヶ岳はガスに隠れて見えませんが、天候は悪くはなかったと思います。ストックを持っていない方も見えましたが何とか歩いていました。持っていればもっと歩きやすいのに。



【大日ヶ岳はガスの向こう】

- ・大日ヶ岳山頂でワカンに履き替えて歩くことにした。天狗山までは山行者も減るのでアイゼンでは潜り込み、歩き難い。
- : ここでハプニング。ワカンの締め方が分からない参加者が。。。あるばいん KANI 総出で教え込みました。
- ・大日ヶ岳山頂から天狗山方面に歩き出したら青空が出てきた。上空は風が強そうではある。なかなかのロケーション。稜線歩きには最高である。



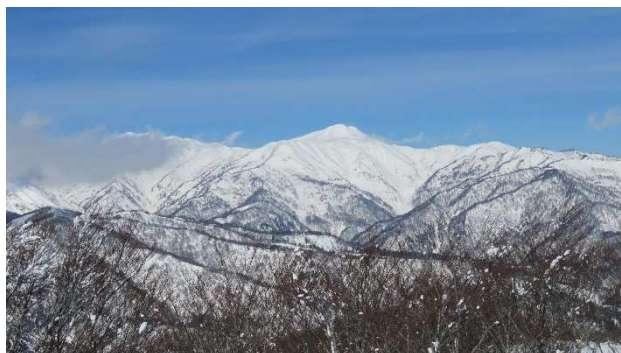
【天狗山方面に歩く参加者】

- ・天狗山までの右側は雪庇が発達しており、近づくのは危険である。
下見山行では場所により近づかなくても大きな穴が開いて落ち込むこともあって肝を冷やしたこともあった。



【天狗山までは雪庇が発達】

- ・天狗山 (11:00 頃到着)
天狗山までは 25 名が登頂。残る 2 名は手前の峰で休憩後、大日ヶ岳へ引き返し、大日ヶ岳山頂で待ち合わせを確認。
ほぼ全員が天狗の鼻まで足を延ばし、写真を撮ったり、昼食を摂ったりと暖かい時間を過ごした。



【天狗山から白山を望む】

- ・天狗山から引き返し（12:10 頃）
天狗山から戻る頃には青空も陰り、あっという間にガスガス状態に。
大日ヶ岳周辺は本日ずっとガスの中。天狗山まで足を延ばして正解であった思った瞬間でした。
- ・大日ヶ岳山頂で待機中の2名と合流。
2人の食事が終了するまであるばいん KANI メンバが待機して揃って下山することにした。
- ・下山中、最後のピークから大日ヶ岳山頂方向を振り向くとガスに覆われる稜線が寒々としていた。



9. 閉会式（14:00 頃）

- ・全員【大日ヶ岳山頂はガスの向こう】ことを確認。迷わずにはたか山頂にへかみえましたが、無事完歩できて良かったと思います。
参加者の皆さん、お疲れ様でした。
- ・雪山シーズンは、まだまだ続きます。
危険回避できることは事前に対処して余裕を持った山行になるように心掛けてください。
で、締めくくり解散としました。
- ・最後に、雪山装備は使用頻度が少ない経験値が増えない装備です。
登山靴にしっかり合わせて装着方法を間違えずに確実に使用することが大事です。
有識者、取扱説明書などで確認を行い、自分で装着して実際に歩いて納得して経験値を高めてください。
雪山の待ち時間は寒さが付きものです。
メンバーを待たせないことも重要です。

参加者の感想

多治見ろうさん 藤田 里加子

質問1: 具体的講習は、有りませんでした。習いたかった事が有れば教えて下さい。

取り付け方 歩き方といった基本的なことの指導があるとよかった

アイゼンやワカンの不慣れな方がおられましたが 天候状況が寒い中でうまく教えてもらうことができていなかった

質問2: 長い稜線歩きでした。ワカンを着けての歩行、意識して注意したことはありますか。
前半は雪が降って風もあり歩く事に集中していました 天気が良かった後半は足元よりも風景や写真などに気を取られワカンを踏むことができました

質問3: 雪庇は、東西南北どちらに出来てましたか。

大日ヶ岳から天狗山までの稜線で雪庇は風下の東に(北東)向かって出来ていた

質問4: エビのシッポは、東西南北どちらに伸びてましたか。

これも風の方向なので 風上の西に(北西)に向かったのびていく。

参加しての感想

雪や風のある日であった天候如何と思うが講習会の指導が無いのは残念でした

雪山としては前半の厳しい条件から後半の穏やかな晴れ間の両方を味わう事となり雪山での天候条件の重要性を体験した



県連救助隊冬季搬出訓練

開催日：2025. 2. 16(日) 9:00～14:15 晴れ

開催場所：揖斐高原旧スキー場 日坂ゲレンデ

実施内容紹介：

雪崩に遭遇した場合の救出と搬送の訓練

訓練リーダー 中津川労山藤田清（救助隊長）

参加者 アルパインKANI 6名 みのハイク 6名

岐阜ケルン 2名

訓練内容及び工程

① 弱層テスト 9:00 頃～

○積雪観察のためピット作成

幅 4～5m、深さ 2m程度を掘り出し、積雪断面を観測しまし

た。積雪はいく

つもの層で

きているので

積雪層ごとに

どのような雪質になっているか観測。

○積雪の硬度の観測（ハンドハードネステスト）

（こぶし、4本指、1本指、等で確認）

○ショベルコンプレッションテスト

直径 30 cm高さ 70 cmの四角柱をショベルとスノーソーで切り出す。切り出した四角柱の上面にショベルをあてて叩く。積雪層が潰れたりずれたりしないか観察する。

○スクラムジャンプテスト

数人で雪の上でスクラムを組んでジャンプし弱層を判断する。

ジャンプ中 → 崩壊後



② 搬送訓練



担架で運ぶ



樹木がないので雪で固定する

担架がない時はツエルトとカラビナとスリングで作る



③ ビーコンの基礎操作練習 午後 12:30 頃～

○装着の仕方、電源確認（センド（遭難者）サーチ（捜索する側））

○ビーコンにて埋没者を探す練習（ビーコンを雪の中に隠して探してみる）

○プローブ（ゾンデ棒）の基本的な出し方・持ち方・刺し方（突き刺して埋没者を探す）

ショベリング（ショベルで埋没者を掘り起こす）以上

＝感想＝

冬季雪山の搬出訓練

は2回目ですが、復習

になりました。反復は

必要ですね。立木の代わりに雪の塊を支点にするというのは良い勉強になりました。今回はお天気が良かったですが、悪天候の場合の救出は大変だと思いました。準備をして下さった方々有難うございました。

報告 みのハイク 森



第 24 回東海ブロック雪崩事故を防ぐための講習会レポート

みのハイキングクラブ 松岡正人

日付：2025 年 1 月 25 日（土）～26 日（日）

場所：柵池高原スキー場

メンバー：事務局 2 名、講師 4 名、参加者 16 名
（グループ：2 班編成にてそれぞれに講師 2 名と事務局 1 名が同行）

宿泊先：鷺の家（わしのや）長野県北安曇郡小谷村大字千国乙 12840-1

1 日目：くもりのち雪 最低-10℃ 最高-5℃

オリエンテーションにて 2 日間の行動の説明を受けた後、テープに名前を記入しヘルメット・胸部・足のいずれかに貼りメンバーの識別を行った。

山頂駅でビーコンの確認を行い、北方面 200m 程離れた尾根東側の斜面が授業の現場となる。（因みに、柵池はバックカントリーが多いため、リフト降車場にビーコンセルフチェック機器がある）



《積雪層チェック》

まずは雪質チェックを行うために斜面に 170 cm 程の壁を作る。

雪の壁をブラシでやさしく横方向に掃くと積

雪層が現れた。

積雪層は地面に近いほど幅が狭くなっており、降雪のたびに重みで潰れたことが分かる。

次にハンドハードネステストを行うと、積雪層の幅が広いほど柔らかく拳が入る。

幅が狭くなるにつれ 4-フィンガーからワンフィンガーへと変化し雪の密度が高いことが分かった。



《積雪層温度観測》

次に積雪層の温度を観測した。

現在の状況：積雪 240 cm/雪面の気温は-4.3℃
測定方法は雪面から 10 cm おきに-160 cm まで計測した。

雪深：-10(-2.6℃)、-20~30(-5.8℃)、-40(5.4℃)、-50~60(-5.5℃)、-70(-5.6℃)、-80~-100(-5.8℃)、-110(-5℃)、-120(-5.5℃)、-130(-5.4℃)、-140(-5.2℃)、-150(-5.1℃)、-160(-5.0℃)

テキストでは 10 cm で 2℃ 以上異なると霜が発生し弱層となる。

このことから、雪深マイナス 10 センチからマイナス 20 センチの箇所では 3.2℃ の差が発生しているのでこの深さで雪崩が発生する可能性が高いことが分かる。



《CT（コンプレッションテスト）》

70 cm～1m ほど鉛直に削った面に幅 30 cm × 奥行 30 cm の四角柱をスノーソーで切り出す。

スコップのすくい面を下にし、やさしく四角柱の上に平らになるように乗せる。手首×10→肘×10→肩×10の順にそれぞれの自重を加えながら亀裂伝播を確認する。この際、数値を忘れることが無いように手首から肘へ変わっても連続で数えること。この時の結果は 20 回で雪面より 20 センチの所に積層のズレが確認できた。言い表し方としては CT20（回数）－20（深さ）となる。

テキストによる判断では 5 段階中の 3－結合状態が悪いという結果となった。

一方、西側斜面へ移動し同様のテストを行った結果 CT10－10 となった。

道の駅夢さんさん谷汲（トイレ休憩）

東斜面 CT20－20（日照なし）

西斜面 CT15－20（日照あり）

以上のことから、西側斜面では少ない衝撃で積層のズレが確認できたため雪崩発生リスクが高いことが分かった。



《ETC（エクステンテッド・コラムテスト）》

東側斜面での CT テスト結果をもとに破壊伝播の観察を行った。

高さ 70 × 幅 90 × 奥行 30 の四角柱を切り出し、端で CT テストと同様の作業を行った。この際 CT10 にて破断面らしき弱層が現れ、CT20 まで続けたが伝播することはなかった。ただし、伝播しないから安定していると判断するのではなく CT 結果と総合して判断することが重要とのことであった。

CT と ETC の結果より 5 段階中の 3（真中）であった場合撤退を優先する。

仮に登山を続ける場合は樹林帯からの経路に変更する。樹林帯が無い場合は退避場所を決め 1 名ずつ登ること。

《ビーコンのチェック（ダブルグループチェック法）》

- ① メンバーは 2m 以上の間隔で横一列に並ぶ。
- ② リーダーのビーコンをセンドモードにして、メンバーのビーコンをサーチモードにする。
リーダーはメンバー全員に順番に接近して、全員のシグナルが検出できることを確認する。
- ③ リーダーはチェックしていったメンバーの最後尾に並ぶ。リーダーのビーコンをサーチモードにして、メンバーのビーコンをセンドモードに切り換える。
- ④ メンバーは順番にリーダーに近付いて、リーダーはメンバーのセンドモードが正常に作動していることを確認する。
- ⑤ リーダーは自分のビーコンもセンドモードに切り替えて装着。
この際から後尾のメンバーがリーダーのビーコンがセンドモードに切り替わったか必ず確認する。（マムートはセンドモードの音が鳴る）

2 日目（雪のち晴れ）

第 2 駐車場近くのウッドチップロードにて講習が行われた。

《ビーコンの特性》

ビーコンから発する磁束線は直線と曲線を描く特徴があり、サーチモードで受診した際に円弧を描き始めたら中心方向に歩くと良いことなど学んだ。

（埋没者のビーコンが縦の向きであった場合、どの位置からも直線方向の指示となる）



《プロービング》

コンパニオンレスキューに必要なプロービングの基礎（組み立て～持ち方～使い方）を学んだ。ポイントは、ビーコンの表示からよりもやや深めに刺すこと。この時にプロ

ープのメモリの位置を片方の手で握り、その手が雪面に着くまで差し込むといちいち深さの確認する事なく迅速に作業できる。またスポットプロービング(角型)プロービングを学んだ。この方法は、ピンポイントで位置を特定された埋没者の発見に用いる。実際埋めた位置がわかっているにもかかわらず、この方法で見つけ出す事が出来る方もみえた。

《エアアプローチ》

① シグナルサーチ

受信半径は約 20m。状況把握後に可能性のある箇所に遺留物がないか探す。

② コースサーチ

受信距離 10m になるまで周りの状況を確認する。5m になったら速度 50 cm/sec で搜索する。

③ ファインサーチ

方向指示が表示されなくなるまで範囲を絞る。

④ クロスサーチ

進行方向に対して前後左右に動かし最小値を見つける。速度は 10 cm/sec で搜索する。

(ビーコンの電波は 1 回/sec であるため)

《掘り出し》

プローブに沿ってU字形に幅 1.5 メートルの切込みを入れて掘る。コンベア法でかき出し埋没者を水平に引き出せる様に掘り進める。

ポイントは中間～後方者がボートを漕ぐように雪を掻きだすことで水平面が早くできることが分かった。また、後方者は全体が見えるので掘り出し形状や交代などの指示を出しやすいこともわかった。

《シナリオトレーニング》

各班がそれぞれリーダーと役割分担を決める。

5人1組で行ったが、雪深1メートルの埋没者を救出するのに8分掛かった。

埋没から15分が生命限界とすると、少人数で埋没深が1メートル以上であるとかかなり厳しい事がわかった。もしも埋没者がビーコンを付けていなければ絶望的と言える。

また、救助を求めて搜索に加わる場合には以下の確認を行う。

- ① 警察へ山岳遭難連絡確認 (役割分担を決める)

- ② 埋没場所の確認

- ③ 埋 没人数

- ④ 埋没者ビーコンの装着有無

- ⑤ 搜索者全員サーチモードへの切り替え

- ⑥ 安全確認 (見張り必要性)

- ⑦ 搜索開始



【総括】

机上講習と実技講習を学び雪崩が身近であることに気付きました。

誤った判断をしないためにも、雪崩の特性(リスク)を知り、周りの状況とテストの結果から判断する重要性を知ることが出来ました。

また、ビーコン操作から救出まで限られた時間の中で役割分担を決め効率よく作業するためには、クラブでの練習も必要であると感じました。

身が引き締まる2日間を過ごさせていただきました。



第23回東海ブロック雪崩事故を防ぐための講習会に参加して 岐阜ケルン山岳会 佐藤瑞恵

- ★日時 2025年2月25日～26日
- ★場所 柵池高原スキー場付近
- ★参加者 愛知9人 静岡4人 岐阜3人

1/25実施内容

柵池高原スキー場ゴンドラ終着駅付近

- ・ビーコンダブルチェック解説
- ・雪崩地形の判断、天候ハザード
- ・積雪観察
層を目で観察、ハンドハードネステスト
- ・雪の結晶観察
- ・弱層テスト
TT、CT、ECT
- ・尾根の反対側へ
雪質の違いを観察
- ・ビーコンダブルチェック実践
グループチェック含む
- ・掘り出し後の処置についての解説

1/26実施内容

柵池第二駐車場隣接公園

- ・ビーコンの電波の性質と扱い方
- ・ビーコン探索方法
- ・プローブの扱い方
スパイラルプローピング
- ・コンパニオンレスキュー
4～5人パーティでの役割分担
掘り出し方、コンベア方フォーメーション
複数埋没の場合
- ・実際に雪崩に遭ったことを想定して探索

まとめ

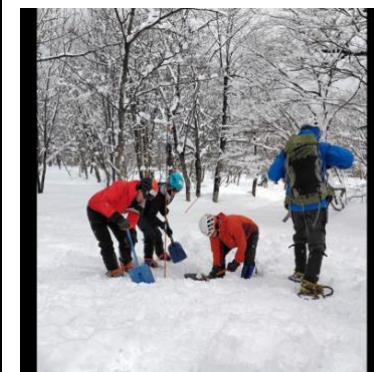
講師をしていただいた宮田さんの指導がとてもわかりやすく、前回よりもかなり自分も理解できたと思う。やはりこういう日頃出番がないことは訓練でやっておかないといざという時多分何もできない。だけど、これはパーティのうちの一人ができればいいものではなく、全員ができなければならないものである。また、全てにおいてですが、情報は日々変わっているので一回教われればいいというものではない。一回受けてもまた何年後に再度受講することで、自分の思い込みも正されるし、新しいやり方を習得できる。人は忘れる生き物なので、やらないと必ず忘れるし、記憶が改竄されることもある。記憶違いが一番危険では？また外部で講習を受ける利点は、緊張感を持って講習を受けられるということ。



三宅講師による作成見本と自分で作成したCT



ビーコン探索の様子



↑コンパニオンレスキューの動画です

<https://youtu.be/m0zZYaYNyV4>



★★★団体活動報告★★★

★あるぱいんKAN I

山行報告

報告者：土岐進祐

開催日：1月2日

藤原岳山行

アクセス：自家用車 三岐鉄道

登山情報：

孫田尾根は丸山—多志田山の間が通行止めです。藤原岳には行けません。

報告：

藤原岳は鈴鹿山脈の北方に位置する鈴鹿セブンマウンテンの一山である。三岐鉄道の終点である西藤原駅の近くに登山口があり、駐車場も整備され、登山口や山頂近くには登山者のための立派な小屋やトイレもある。一年を通じて親しみやすい山である。

例年、私の初山行は新年初めの藤原岳登山で始まる。すでに30年以上も続けてきており、最近では伊勢治田駅を起点にして孫田尾根を經由し、藤原岳に登って、西藤原に下山し、三岐鉄道で伊勢治田駅に戻るといふ、少し山慣れた人向けのルートで定着していた。

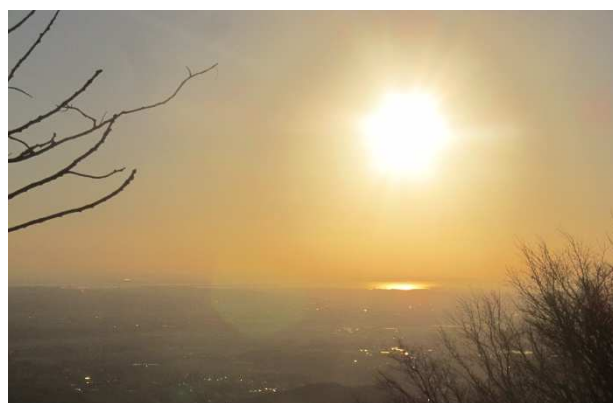
さて今年も1月2日6時前に伊勢治田駅の駐車場に車を止めた。ここから登山口まで1時間あまりのアプローチを歩く。登山口から少し行ったところで何と孫田尾根は中途から通行止めであるという表示に出くわした。ここでもと来た道に戻り、登山ルートを変更して西藤原から登りなおすのはげんなりである。実際のところ、人間年を取ると、ある程度先が読めてしまい、頭の中で行動して、実際に腰を上げることが億劫になる。戻る駅の駐車場や西藤原登山口（大貝戸登山口）の風景を心に浮かべ、歩き始めて、1合目から9合目までそれぞれの行動の情景を脳裏に描き、山頂からの眺望、帰り道を9合目から逆に戻っていく様子、最後に登山口にある神社参拝などを一通り眼前に再現すると、まあこれで登山終了、今年は終わりで良いとなった。それなら今ここで行けるところまで登っておこうと考え先に進んだ。

木々に埋もれた神社址の碑を越えて、急坂の九十九折りの山道を登っていくと、孫田尾根の尾根道に出る。多少なだらかになった道をし

ばらく辿っていくと、ごつごつしたカルスト地形が見られるようになり、前方にピークが見えてくる。これが丸山である。藤原岳の標高は1144mであり、丸山が645mなので半分以上まで登ってきたことになり、登山口から山頂まで水平距離では1/3程度来たことになる。再びここから先通行止めという案内表示板が現れた。期待した踏み跡も先に続いておらず、チェーンも張られているのでやむなく引き返すこととした。



通行止めの表示と、背景右上が採掘で人工的な山容の藤原岳東面



2025年1月2日伊勢湾からの日の出



孫田尾根（左側）と採掘で特徴的な山容の藤原岳東面（右）

身体が動きに馴染み、気持ちに余裕がでてきて、ルートを変えて登り直すというモチベーションが上がってきた。30年以上続いている慣例の年初の藤原岳登山の連続記録を止めたくない。今なら折り返して、登山口から車までの車道をrunすれば、10時前後には西藤原登山口に移動できる。また、ここを一人で登るのなら登りの時間は標準タイムほどかからないはずである。うまくいけば14時には下山できるだろうと引き返しながらこの一連のことを考えた。しんどさは何とでもなるとほとんど気にしなかった。まだ少しは若き熱き心が残っていた。

想定通り西藤原の登山口から登り始めたのが10時であった。8合目1000m付近までは積雪もなく、疲労感もものとせずに、そのまま頂上手前の小屋まで休むことなく登り続けた。小屋から頂上まではアップダウンがあり、積雪量も増加するので、スリップする心配があるため、ここまでの登りでは着けなかったアイゼンを付けた。今年は去年と同様に雪は少なく、温暖化を身体で感じる。やはり万一来ててきたワカンにはザックの重りとなったが、おおよそ想定通りに下山できた。

先に述べた孫田尾根の通行止めのことには話を戻すと、通行止めになっているのは試掘のためと早合点していたが、どうやら本格的石灰石の採掘で今後数十年続くなり。そうなると孫田尾根は廃道となる。まあ鈴鹿山脈を縦走するというツワモノたちには北の御池岳方面から来て、藤原岳を越え、通行止めの手前で治田峠の方に曲がれば、竜ヶ岳方面へ縦走ができる。しかし景観は変わっていくだろう。今削られている藤原岳東面がさらに東の尾根側に広がって行く。

鈴鹿では山が崩れたり土砂で埋まったりして道がなくなることも多く、自然か人為か人が関わった結果か判然としないものの、道は消え、新しく生まれている。歴史的見地からすれば孫田尾根の廃道も一つのエポックに過ぎないのかもしれない。開発や自然保護について云々言うつもりもないが、せめて通行止めとしてしまうのではなく、う回路（巻道）を設定もしくは許可してほしいものである。



藤原岳山頂



★大垣勤労者山岳会 池田山お雑煮山行報告

開催日：2025年1月5日

開催場所：池田山

参加者：16名

実施内容：霞間ヶ溪登山口 9:00→焼石神社参拝
11:40→池田の森ハングライダー離着陸
11:50 着→池田山 12:30→池田の森ハングライダー離着陸
13:00～14:20→霞間ヶ溪登山口 16:10

感想：

毎年恒例のお雑煮山行。2025年度は16名で新春焼石神社参拝とお雑煮山行に出発しました。話が弾み、賑やかな山行になり、東屋まで到着しました。



休憩後、焼石神社



まで登り、今年の安全登山を願い、参拝しまし

た。

神社の扉が新しくなっているのは、中に蜂が巣を作り、熊が蜂の巣を取るために扉を壊したという話を聞き、驚きました。

池田の森に到着し、メインのお雑煮作りです。数名の方々にお雑煮作りをお願いして、他のメンバーは池田山（924m）山頂まで登りました。伊吹山展望地では絶景を堪能しました。今年は



雪が少なく、ツボ足で登頂できました。時間がなく、急いでお雑煮場所の池田の森へ、下山しました。お雑煮と皆さんからの差し入れを頂いて、お腹いっぱいになりました。大きくなったお腹を抱えて全員で無事に下山し、今年度の神社参拝とお雑煮山行を終えました。お雑煮作りは、毎年お世話になる方々にはとても感謝する次第です。



岐阜ケルン山岳会

2024年度活動報告と今後の課題

兵働 弘祐

2024年2月25日の第56回定期総会にて月3回年36回の定期会山行計画が承認され総会後午後よりセルフレスキュー講習（実施内容救急法 止血・三角巾・レサシアン使用した心肺蘇生、搬送）参加者20名を行った。その後の講習会は3/17 読図講習後ロゲイニング大会（参加者20名）、6/1 登攀者向けセルフレスキュー講習（実施目的アルパインにおける事故対応を身につける）参加者5名、11/27 確保理論（机上講習）、衝撃荷重（砂袋を落下させた衝撃体験）参加者20名、12/7 ハイカー向けセルフレスキュー講習（実施内容ロープワーク・簡易ハーネス作成・ツェルト設営・日帰り登山を想定した装備チェック・安全登山のPDCA・山行プランニングのグループワーク）参加者18名 上記以外にはほぼ毎月初心者向け岩登り講習を実施した。技術指導チームの努力もあり充実した講習内容だったと思います。一方定期会山行においては3月から12月までの計画31山行に対して実施15山行になり、16山行は天候不良、リーダーの都合により中止になった。総山行数は558件であり昨年比2割減である。昨年6月から9月までの天候不順が実施山行に強く影響していたと同時に予備日、リーダー変更など事前準備に柔軟性が足りなかった。こまめなホームページの更新が効してか今期11名の入会者がありその平均年齢は49歳（総平均年齢は54歳）で近年若年化しており会員の山行スタイルも多様化してきました。しかし登山サークルとは違い会務役割や規則が多く、また仲間内自主山行に踏み込めない会員の早期退会者もあり年度では2名しか増えておらず入

会後あまり顔を出さない会員にはメンター制度を紹介して対策していますがまだいい結果は出ていません。

年々増加傾向にある山岳遭難に対して山岳知識・技術の講習、リーダー育成、後ろを付いていくだけのメンバーの意識改善を図りながら会員のより安全な登山活動を今後一層会としてフォローしていきます。



多治見ろうざん

11月会山行 入道ヶ岳

山行日：11月17日（日）

メンバー：14名

アクセス：レンタカー8人乗り2台。

駐車場：登山者は第3駐車場を利用する。

コースタイム：多治見 6:00 発⇒椿大社 7:35～7:50 発⇒北尾根コース入口 8:05⇒3回の休憩を取りながら急登を登る⇒北の頭 10:15⇒奥宮参拝 10:25⇒入道ヶ岳山頂（昼食）

10:35～11:15⇒二本松尾根下山 12:35⇒椿大神社参拝等⇒多治見 15:00

感想：

椿大神社の裏にある愛宕神社が北尾根コースの入口になっており、そこから階段状の急登を登り始めるが北の頭まで等高線を縦断するほぼ急登の連続。

北の頭に近づくと天然記念物の馬酔木（アセビ）の群落に出会う。思っていた群落と違い山頂の周囲ほぼ全域がアセビ。これ程のアセビは初めて見ました。ここからの周囲の山々の紅葉が広く眺められて「わ～っ、キレイ！」の声が上がりました。

山頂は笹原ですが鹿害で地表は剥がされ苔が覆ってその対策にアセビの幼木が植林してありました。鹿の嫌うアセビを増やす目的なのでしょう。ガスっていた御在所や鎌ヶ岳も見え紅葉を観ながらの昼食は美味しかったです。

二本松尾根を下山して天照大神の孫の猿田彦大神を主神とするという椿大神社に参拝して帰路につきました。ご利益がありますように。



12 月会山行 愛鷹山系 呼子岳、越前岳

標高：1,505m

開催日：12月14日（土曜日）

メンバー：12名

アクセス：レンタカー利用

コースタイム：山神社 9:13…割石峠 11:25

…呼子岳 11:30～12:15（昼食）…越前岳

13:00～30…富士見台 13:45…下山 15:50

感想

- ・ 駐車場から時計回りで周回ルート。
- ・ 割石峠までは溷れた沢の岩ゴロゴロの登山道をゆるく上がっていく。浮石が多く歩にくいのでこのルートは登りで使って正解であった。

- ・ 高速道路からは綺麗にみえた富士山は登山口に近づくにつれ一切みえず、登山の途中にすれ違った登山者からは雲に覆われて富士山は見えず残念だったと聞く。少しテンションが下がったが望みは捨てず期待しながら進んだ。
- ・ 割石峠では目の前に駿河湾が広がり感激。
- ・ 呼子岳について昼食を取っていると雲が流れて綺麗な富士山の姿に歓喜の声があがった。
- ・ そして愛鷹山塊の最高峰の越前岳に無事登頂その先の富士見台からも富士山は綺麗に見ることが出来ました。



★瑞浪山の会 冬山合宿活動報告

報告者：加藤賢吾

開催日：2025.1.3～4

山の名前：位ヶ原～乗鞍岳

参加者：加藤、高木、長谷川

アクセス：3時間15分

コースタイム：1日目＝5:30 瑞浪～8:45 乗鞍高原 P 9:20～9:54 ツアーコース開始点 10:00～11:51 ツアーコース終了点 12:03～12:47 位ヶ原山荘 2日目＝7:05 位ヶ原山荘～9:20 肩の小屋 9:40～11:09 乗鞍岳・剣ヶ峰 11:25～12:03 肩の小屋 12:30～13:13 ツアーコース終了点 13:20～14:11 ツアーコース開始点 14:20～15:16 乗鞍高原 P 15:45～19:50 瑞浪

登山情報：

報告：1日目

今年の冬山合宿は、32年ぶりに冬の乗鞍岳に登ることとなる。

久しぶりの冬の北アルプスなので、天候が心配されたが、登頂予定日はどうやら良い天気になりそうな予報が出ていた。

駐車場に車をとめて身支度をし、道路を横断しリフト券を購入する。三つリフトを乗り継いでゲレンデトップまで上がると、バックカントリースキーのツアーコース開始点がある。

ここでスノーシューやワカンを着装し、ツアーコースに登っていく。樹林が広く切り払われており、出だしからスキー用の急な斜面が現れる。いくつか斜面を越え、上から滑ってくるスキーヤーとすれ違いながら上っていくとやがて森林限界に達する。



そこからさらに上ると、ツアーコースの終了点となり、直進すると肩の小屋方面、右折すると位ヶ原山荘という標識がある。

我々は位ヶ原山荘を目指して、赤布を頼りに斜面を上る。やがて車道に出て、少し下り、水平な道をしばらく歩くと位ヶ原山荘に到着する。

2日目：7時過ぎに小屋を出発。林道を300mほど戻り、トレースを目当てに右の樹林に登っていく。先行の女性が昨日の積雪をある程度踏んでくれているので順調に登っていく。途中でラッセルを交代し、さらに登っていく。途中で後続の若者たちとラッセルを交代ししばらく登るスキーコースと合流する台地に出る。空は真っ青で雲海が眼下に見える。風もそれほど無く絶好の天気だ。西には乗鞍岳の山頂部の三つの峰が白く聳えている。

写真を撮った後、真っ白な雪原を快調に進む。やがて道路を越え、肩の小屋への登りにかかる。肩の小屋まで着くと西風が強く、小屋の陰で風を除けながら休憩する。ここで、アイゼンに履き替え、まずは朝日岳の急斜面を登る。

カリカリの斜面を風に吹かれながら登っていく。途中、左に回りすぎてピーク直下で少々手こずったが、何とか朝日岳を越え、いったん鞍部に下りて、蚕玉岳へ登り返す。ピークまで登れば、あとは稜線を少し歩き、最後の雪壁を登れば、凍てついた乗鞍本宮が建つ3026mの乗鞍岳・剣ヶ峰に到着する。

残念ながら、ガスが上ってきてしまい、時折青空は現れるものの視界は良くない。後続の2人を待って3人で記念写真を撮り、下山にかかる。



40分ほどで肩の小屋まで下り、ひと息入れてグングンくだる。山荘方面ではなく、スキーコースを真っ直ぐ下り、40分ほどでツアーコース終了点につく。ここからは、惰性でグングン下り、14時すぎにゲレンデトップまで戻る。下りはリフトに乗れないということで、スキー場の端をさらに1時間ほど歩き、15時過ぎに駐車場につく。20時前に瑞浪につく。

★みのハイキングクラブ 冬季活動報告

開催日：

2024年12月22日（日） 天候 曇りのち晴れ

開催場所：

高山（503.8m）～鶴形山（358.4m） 美濃市

参加者 39名（女性23名 男性16名）

実施内容：

登山道整備&納山祭

コースタイム

関 6.55＝美濃市道の駅「にわか茶屋」(合流)

7.15～7.30＝佐ヶ坂登山口 7.45～8.10・・・

六角堂 8.25～8.30・・・高山山頂 11.15～12.00・・・

鶴形山山頂 13.40～13.45・・・鶴形山駐車場（全

員参加納山祭セレモニー）14.50～16.00＝現地

解散 16.10

感想：

関市役所、美濃市道の駅「にわか茶屋」の二か所で集合して美濃市の佐ヶ坂登山口まで行き、登山開始である。今日は登山道整備も行うので、

ロープ設置班と倒木処理班は別ルートで早めの登山を開始した。登山道は地道できつい登り下りが多く危険箇所も非常に多くあった。

危険箇所にはロープ設置班がトラロープを事前に張って安全確保した。倒木処理班はチェーンソーなどで大きな倒木などを処理した。

全員が高山山頂に到着、楽しい昼食を済ませ記念撮影などおこなった。昼食を済ませて次の目的地、鶴形山山頂を目指して進む。

低山ではあるが、山は深く注意しないと道迷いをする。鶴形山山頂手前で他班と出会う。挨拶を済ませて登頂してから鶴形山駐車場に下山した。



鶴形山駐車場に毎年恒例の納山祭を、全員集合して行った。早めに下山した接待係りの人たちが作った美味しい善哉を食べた。お菓子も沢山あった。お腹が膨らんだところでリーダーのクイズ、順番を決めて皆が持ち寄ったお土産をもらう楽しい時間を過ごした。（報告 M・N）



■編集後記

原稿投稿有難うございました。

次回は、7月です。

機関誌部会より、原稿依頼が有ります、宜しくお願いします。

又間違いが有れば、古川迄メール下さい。

機関誌部会

部長	古川 春光	瑞浪山の会
副部長	長谷川英世	瑞浪山の会
部員	鈴木智佳子	あるぱいん KANI
〃	清水 珠貴	大垣労山
〃	土屋 伸次	岐阜ケルン
〃	西部 一政	多治見ろうざん
〃	牧野 潔	中津川労山
〃	日比野 孝	瑞浪山の会
〃	森 美奈子	みのハイキングクラブ

機関誌に関する要望等

古川 春光 まで

kanten2864@gmail.com